資 料

Compressed sensing併用Parallel Imaging法におけるDenoising強度の 変化による定量値への影響

Influence of Denoising level Change on Quantitative Values in Combined Compressed Sensing and Parallel Imaging Method

郡 倫一1,2)

1)茨城県立医療大学 保健医療学部
 2)金沢大学大学院 医学系研究科

Key words: Compressed Sensing, Parallel Imaging, structural similarity (SSIM), scale-invariant feature transform (SIFT), denoising level

[Abstract]

Background: This study investigates how changes in the denoising level affect the analyzed values when using the C-SENSE method.

Method: Images were captured using the phantom on MRI system with varying reduction factor. Post-processing was conducted to change the denoising level to 0, 15, 30, and 50, and images were created for each denoising level from the acquired images. Each quantitative values were calculated from the generated images.

Conclusion: Structural similarity (SSIM) and scale-invariant feature transform (SIFT) should be used to evaluate image quality when changing the denoising level of the C-SENSE method.

【要旨】

背景:本研究の目的は、C-SENSE法を使用しdenoising強度を変化させたときの解析値への影響を調べることである.

方法:作成したファントムをMRI装置でreduction factorを変化させて撮像した.取得した画像から後処理でdenoising強度を0,15,30,50と変化させ、各denoising強度画像を作成した.作成した画像から各定量値を算出した.

結論: denoising強度を変更した場合の画質評価には, structural similarity (SSIM), scale-invariant feature transform (SIFT) を使 用するべきである.

緒言

magnetic resonance imaging (MRI) の撮像時間 短縮の手法の一つとして parallel imaging があり, 現 在の臨床では欠かすことのできない技術となった. し かし, 上記手法は撮像時間の短縮と signal-to-noise ratio (SNR) やアーチファクトの発生はトレードオ フの関係にあり, 高い倍速率 (reduction factor : R factor) で撮像することは臨床的にはできないことが 多い. しかし, 2006年に compressed sensing法 (CS) が発表され^{1,2)}, 普及してきている³⁻⁵⁾. このCS と sensitivity encoding (SENSE) 法を組み合わせ た compressed sensing-SENSE (C-SENSE法) は,

KOORI Norikazu, M.S.^{1,2)}

- 1) Faculty of Health Science, Ibaraki Prefectural University of Health Sciences
- 2) Division of Health Sciences, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences

Received August 21, 2022; accepted April 18, 2023

k空間のデータを規則的に間引くSENSE法とは異な り、k空間のデータをランダムに間引くランダムサン プリングを行い、wavelet変換によってデータにス パース性を持たせ、その少数のサンプリングデータを 基に denoising処理と逆wavelet変換を繰り返すこ とで、撮像時間の短縮とそれに伴うSNRの低下を最小 限にする技術である.この denoising処理の過程で使 用する denoising強度は、C-SENSE法の wavelet変 換後の denoising処理の過程でどの程度の信号まで をノイズとして認識させ、信号除去を行うのかという 閾値の役割を果たすパラメーターである.

従来, MRIの画像評価方法の一つとして contrast ratioや contrast-to-noise ratio (CNR) が使用され ているが, C-SENSE法を使用すると, wax-layer artefact などにより画像のテクスチャーが変化してし まうことが報告されており⁵⁾, contrast ratioや CNR と視覚評価が一致しない可能性がある. そこで CSを 使用した画像の評価方法として, 類似性を評価する structural similarity (SSIM)⁶⁾や物体の特徴量を評価 する scale-invariant feature transform (SIFT)^{7.8)} の有用性が報告されており⁹⁾, これらの定量値を用 いて画質評価をすることで, 評価者によらず数値的 に画質の違いを解釈できる可能性がある. しかし, denoising強度のパラメーターを変更することで画 像のノイズ量や画質が変化するが, 前述の定量値へ の影響は報告されていない. そこで本研究の目的は, C-SENSE法を使用しdenoising強度を変化させたと きの定量値への影響を調べ, denoising強度を変化さ せても画質変化を評価する際に使用可能な定量値を知 ることである.

1. 方 法

1-1 使用ファントム

本研究は, 倫理委員会で倫理規範の妥当性について 審査を受け, 承認された (小牧市民病院倫理委員会 承 認番号:221001).

過去の研究¹⁰⁾を参考にして、頭部模擬ファントム を作成した.重度の頭部外傷や神経精神障害の病歴 のない健康なボランティア(36歳の女性)のT₁強調 画像とT₂強調画像を撮像し、撮像した画像をMatlab R2015b (MathWorks, Natick, MA, USA)を使用 して、画像のピクセルごとの信号強度を3Dプリン ターで印刷する印刷層の厚さに変換し、頭部模擬ファ ントム作成に使用するためのデータを作成した.この 作成したデータを3Dプリンター L-DEVO F300TP (Fusion technology, co., Ltd, Tokyo, Japan) に 送信し, MR信号の発生しない polylactic acidを使用 して作成した.その後、サラダ油と凝固剤を混合した 溶液を作成したファントムに充填してT₁強調画像用 のファントムを作成した.その際、充填した溶液のT₁ 値は498.9 ms, T₂値は137.6 msであった.また水と



Fig.1 Simulated head phantoms.
(A) Simulated head phantoms of T₁WI.
(B) Simulated head phantoms of T₂WI.

5%wtの濃度の寒天を混合した溶液を、作成したファ ントムに充填してT₂強調画像用のファントムを作成 した.その際、充填した溶液のT₁値は2402.1 ms, T₂ 値は96.5 msであった.印刷したヘッドファントムの 凸凹面を満たすのに十分な量の溶液を注いだ後、ファ ントムは25[°]Cの室温のMRI室で24時間放置した後、 撮像した.Fig.1 (A) と (B) に作成した模擬ファン トム画像を示す.

1-2 使用機器と撮像条件

使用機器は3.0T MRI装置 Ingenia 3.0T (Philips Healthcare, Netherland), 受信コイルは32ch head coilを使用した. T₁強調画像の撮像条件は 2D-inversion recovery法併用のturbo spin echo (TSE)を使用し, echo time (TE) 13 ms, repetition time (TR) 2,000 ms, inversion time 800 ms, refocusing flip angle (RFA) 100°, slice thickness 6.0 mm, field of view (FOV) 230×230 mm, in-plane resolution 0.7×0.7 mm, linear profile order, number of slices 1, number of sample average (NSA) 1, bandwidth (BW) 635 Hz/ pixel, echo train length (ETL) 3とした. T₂強調 画像の撮像条件は 2D-TSE を使用し, TE 85 ms, TR 4,000 ms, RFA 180°, slice thickness 6.0 mm, FOV 230×230 mm, in-plane resolution $0.7 \times$ 0.7 mm, linear profile order, number of slices 1, NSA 1, BW 438 Hz/pixel, ETL 3とした. また撮 像断面はaxialとした. R factorは, C-SENSEを使用 しないもの、およびR factorを1.0, 3.0, 4.0, 4.8, 6.0 に変化させて撮像した.本装置はETLとR factorの 選択する値によって空間分解能が変化する. そのため 全ての画像で空間分解能を同一にするためにETLとR factorはT₁強調画像・T₂強調画像共に同一とし、上記 の値を選択した.また撮像した画像からdenoising強 度を0,15,30,50と変化させ、各denoising強度 の画像を後処理で作成した. ここで, denoising 強度 = 0の場合は denoising を実施しない設定である.

ファントム撮像の際にはファントム設置角度によっ て画質が変化するため、治療計画用の外付けレーザー サイドポインターシステムであるLSP-GNTCNM (TAKENAKA OPTONIC CO., LTD, kyoto, Japan)を使用して、ファントムの傾きがないことを確認 して慎重に位置合わせを行った.

1-3 ROIの配置方法と定量評価方法

定量値の算出はC-SENSEを使用しない画像を基準画 像とし, R factorを変化させた画像を評価画像として各 種定量値を算出した. 画像処理ソフトウエアであるFiji imageJ⁶⁰ (https://imagej.net/Fiji/Downloads) と Plugin 機能 (https://imagej.nih.gov/ij/plugins/ ssim-index.html と http://bigwww.epfl.ch/sage/ soft/snr/)を使用しSNR, CNR, SSIM, SIFTを算出 した. また本研究で使用した装置はゲインの固定がで きないため, そのまま解析を行うと各種定量値へ影響 を与える可能性がある. そのためDICOM tagから確 認できる情報からFiji imageJ上で画像信号値の補正 処理を行った後,各種定量値を算出した.

SNRは式(1)を用いて算出した.

$$R = \frac{\text{Signal}_{\text{head}} \times \sqrt{2}}{\text{SD}} \tag{1}$$

SNRは 頭部の SNR, Signal head は 頭部の信号 強 度, SD は 頭部の標準 偏差 である.標準 偏差 は 差分法 で 求めた.

またCNRは、得られた画像の白質および灰白質領 域に5 mm²の面積で10点ずつregion of interest (ROI)を設定し、算出された平均信号値から灰白質と 白質のCNRを式(2)を使用して算出した.またMRI 経験10年の1人の磁気共鳴専門技術者がROIの設定 を実施した.ROIの配置方法をFig.2(A)と(B)に 示す.

$$CNR_{GM-WM} = \frac{\left(Signal_{GM} - Signal_{WM}\right)}{SD}$$
(2)

Signal GMは灰白質の平均信号値, Signal WMは白 質の平均信号値, CNR GM-WMは灰白質と白質の平均 CNRである.

SSIMとは構造的類似性を示し、ヒトの視覚に近い 指標であると報告されており¹¹⁾,以下の式(3)で表 され、この値が1に近いほど構造が類似していること を示す.

$$SSIM(a,b) = \frac{(2\mu_a\mu_b + K_1)(2\sigma_{ab} + K_2)}{(\mu_{a2}\mu_{b2} + K_1)(\sigma_{a2} + \sigma_{b2} + K_2)} \quad (3)$$

SIFTは基準画像に対する評価画像の特徴量の数を 評価する指標である.この特徴量が多いほど画像の一 致度が高いことを示している.

1-4 denoising 強度と定量値の関係

denoising強度と各R factorを変化させた場合の SNR, CNR, SSIM, SIFTの各定量値の変化を求めた.

1-5 統計解析

denoising強度と各定量値の関係をフリードマン 検定によって評価した.フリードマン検定で有意差を 認めた場合,さらに多重比較をウィルコクソンの順位 和検定でボンフェローニの調整有意水準を用いて行っ た.統計学的有意水準は5%未満とした.統計解析ソ フトはR software version 3.4.1 (R Foundation,



(B) Method of ROI setting for standard deviation.

(C) Method of ROI setting for CNR. Each ROI is indicated by an arrow.

Vienna, Austria) を使用した.

2. 結果

denoising強度と各R factorの画像の変化をFig.3 (A) と(B) に示す. Fig.4はSNR, Fig.5はCNR, Fig.6はSSIM, Fig.7はSIFTの各定量値の結果であ る.

 T_1 強調画像・ T_2 強調画像のSNR, CNR共に, denoising強度が上がるに従い解析値が上昇した $(Fig.4,\ Fig.5).$

T₁強調画像でのSSIM, SIFTの解析値はdenoising強度が0の場合, R factorが4.8と6.0のときに 大きく解析値が低下した. その他のdenoising強度 と R factorの組み合わせの解析値では大きな変化は なかった. T₂強調画像でのSSIMの解析値はdenoising強度が変化しても解析値に大きな変化はなかった (Fig.6).

T₁強調画像・T₂強調画像共に,SIFTの解析値は denoising強度が0の場合,R factorが4.8以上のと



Fig.3 Effects on images and denoising level on changes in R factor. (A) T_1 -weighted image. (B) T_2 -weighted image.



Fig.4 (A) Relationship between SNR and denoising level in each R factor of T₁-weighted image. Denoising level combinations showing significant differences are shown above each measurement.
(B) Relationship between SNR and denoising level in each R factor of T₂-weighted image. Denoising level combinations showing significant differences are shown above each measurement. "All" indicates significant differences among all groups. The * symbol indicates a significant difference at p < 0.05, while ** indicates a significant difference at p < 0.01.

Arts and Sciences











Fig.7 (A) Relationship between SIFT and denoising level in each R factor of T₁-weighted image. Denoising level combinations showing significant differences are shown above each measurement.
(B) Relationship between SIFT and denoising level in each R factor of T₂-weighted image. Denoising level combinations showing significant differences are shown above each measurement. The * symbol indicates a significant difference at p < 0.05, while ** indicates a significant difference at p < 0.01. "n. s." denotes non-significant differences among all groups.

きに大きく解析値が低下した. その他のdenoising強 度とR factorの組み合わせの解析値では大きな変化 はなかった (Fig.7).

3. 考察

緒言で述べたように、denoising強度は信号除去 の際の閾値の役割を果たすパラメーターであるため、 denoising強度が上がるほどノイズ成分が低減する. 4.0以上の高いR factorを使用する条件でdenoising 強度=0を使用すると、denoising処理を実施しない ためノイズが多く、アーチファクトが発生する. その ため高いR factorを使用する場合はdenoising強度= 0より高いdenoising強度を選択し、denoising処理 を実施する必要がある.

SNR, CNRはdenoising強度が上がるほどdenoising効果が上昇し、標準偏差が低下するため SNR, CNRが上昇する結果になったと考えられる.し かし、denoising処理によるノイズ除去は一定ではな く、ある一定のノイズ量以上は除去できないことが報 告されている¹¹⁾. そのため本研究で使用したR factor 以上の値を選択し、ノイズ量の多い画像を評価した場 合は傾向が異なる可能性がある.

R factor が4.8以上かつ denoising 強度=0 におけ るT₁強調画像でのSSIMの値が低下した.これは、R factorが4.8以上でもdenoising強度=15以上の場 合, denoising効果によってノイズが低減し, アーチ ファクトの発生が抑制されたためSSIMの値が維持さ れたと考えられる.しかし、denoising強度=0の場 合は denoising を実施しないため、ノイズ低減効果が なく,アーチファクトが発生したためSSIMの値が低 下したと考えられる. T2強調画像はどのR factor でも 大幅なSSIMの値の低下がなかった.これは,T1強調画 像と比較すると、T2強調画像は画像コントラストが高 いため denoising 効果の影響が少なく, denoising 強 度=0でも画質低下の影響がなかったためと考えられ る. T₁強調画像·T₂強調画像共に, その他の denoising 強度とR factorの組み合わせでは大幅なSSIMの値の 変化がなかった. これは、denoising強度の変化によ るノイズ量の変化の影響をSSIMは受けにくいためと 考えられる.

R factorが4.8, 6.0かつdenoising強度=0におけ る, T₁強調画像とT₂強調画像でのSIFTの値が大幅に 低下した. これはSSIMと同様で, denoising強度= 0の場合ではdenoising処理を実施しないため, ノイ ズ低減効果が働かずアーチファクトの増大に伴う画質 低下が影響したためと考えられる.しかし,SSIMと 異なり,SIFTでは高いR factorになるほどSIFTの値 が低下していることから,画像ノイズ増加による影響 を受け,SIFTの値が変化したと考えられる.

以上より、denoising強度によってSNR、CNRは 大幅に異なるため、パラメーターの異なる画像の画 質比較を行う場合は、同じdenoising強度の条件下 でしか評価に使用できないことが分かった。SENSE 法とC-SENSE法の画質比較をSNRやCNRで評価す ることはできないと考える。SNRやCNRと比較する と、SSIMやSIFTはdenoising強度が異なっても解 析値は変化しにくい、しかし、ノイズ量が多い画像 でdenoisingを使用しない条件であるdenoising強 度=0を選択した場合は、画質低下を反映して解析 値が低下するため、C-SENSEの評価を行う際は必ず denoising処理を実施する必要がある。

リミテーションの1つ目として、本研究ではPhilips 社製のMRI装置を用いて評価を行っているが, 他のべ ンダーが供給するCSや画像ノイズ低減処理方法を適 用した場合では結果が異なる可能性がある. 2つ目と して,先行研究ではCNR,SSIM,SIFTが視覚評価と高 い相関を示したことが報告¹⁰⁾ されているが、denoising強度の変化における視覚評価との相関については 検討しておらず、2D画像や他のコントラストにおい ても、これらの各定量値と視覚評価の結果が同様に高 い相関を示すか検討する必要がある.3つ目として、本 研究はファントムのみの研究であるが、SSIMは画像 の類似性を基に算出されている解析値のため、動きの 影響を受けるような場合は異なる傾向を示す可能性が ある.従ってSSIMを臨床画像の評価で使用する場合 は、体動などの影響が発生しない部位での使用に限定 されると思われる.

4. 結 論

C-SENSE法の denoising 強度の変化によって SNR, CNR は変化する. 従って C-SENSE法の denoising 強 度を変更した場合の画質評価には, SIFT や SSIM を使 用するべきである.

謝 辞

本研究の要旨は第38回日本診療放射線技師学術大 会(神戸)で発表した. また,本研究を遂行するに当たり,アドバイスを頂 いた福島県立医科大学 五月女康作准教授に感謝の意 を表します.

図の説明

- Fig.1 頭部模擬ファントム.
- Fig.2(A) SNRのROIの配置方法.(B) 標準偏差測定の際
に使用したROIの配置方法.(C) CNRのROIの配置
方法.方法.それぞれのROIを矢印で示した.
- Fig.3 R factorとdenoising強度の変化における画像への影響. (A) T₁強調画像. (B) T₂強調画像.
- Fig.4 (A) T1強調画像における各R factorでのSNRとdenoising強度の関係. 有意差を認めたdenoising強度の組み合わせを各測定値の上に示した. *All"は全てのグループで有意差を示した. *はP < 0.05, **はP < 0.001を示す. (B) T2強調画像における各R factorでのSNRとdenoising強度の関係. 有意差を認めた denoising強度の組み合わせを各測定値の上に示した. *All"は全てのグループで有意差を示した. *はP < 0.05, **はP < 0.01を示す.
- Fig.5 (A) T₁強調画像における各R factorでのCNRとdenoising強度の関係. 有意差を認めたdenoising強度 の組み合わせを各測定値の上に示した. "All"は全て のグループで有意差を示した. *はP < 0.05, **はP < 0.001を示す. (B) T₂強調画像における各R factor でのCNRとdenoising強度の関係. 有意差を認めた denoising強度の組み合わせを各測定値の上に示し た. "All"は全てのグループで有意差を示した. *はP < 0.05, **はP < 0.01を示す.
- Fig.6 (A) T₁強調画像における各R factorでのSSIMとdenoising強度の関係. 有意差を認めたdenoising強度 の組み合わせを各測定値の上に示した. "AII"は全て のグループで有意差を示した. *kP < 0.05, **kP < 0.01を示す. (B) T₂強調画像における各R factorで のSSIMとdenoising強度の関係. 有意差を認めた denoising強度の組み合わせを各測定値の上に示し た. *kP < 0.05, **kP < 0.01を示す.
- Fig.7 (A) T₁強調画像における各R factorでのSIFTとdenoising強度の関係. 有意差を認めたdenoising強度 の組み合わせを各測定値の上に示した. *はP < 0.05, **はP < 0.01を示す. "*n. s.*"は全てのグループで有意 差を示さなかった. (B) T₂強調画像における各R factorでのSIFTとdenoising強度の関係. 有意差を認め たdenoising強度の組み合わせを各測定値の上に示し た. *はP < 0.05, **はP < 0.01を示す. "*n. s.*"は全 てのグループで有意差を示さなかった.

利益相反

筆頭著者および共著者全員に開示すべき利益相反は ない.

参考文献

- Candes EJ, et al.: Robust uncertainty principles: exact signal reconstruction from highly incomplete frequency information. IEEE Trans Inform Theory, 52(2): 489-509, 2006.
- Lustig M, et al.: Sparse MRI: the application of compressed sensing for rapid MR imaging. Magn Reson Med, 58(6): 1182-1195, 2007.
- Donoho DL: Compressed sensing. Trans Inf Theory, 52 (4): 1289-1306, 2006.
- Candes EJ, et al.: An Introduction To Compressive Sampling. IEEE Signal Processing Magazine, 25(2): 21-30, 2008.
- Sartoretti T, et al.: Common artefacts encountered on images acquired with combined compressed sensing and SENSE. Insights Imaging, 9(6): 1107-1115, 2018.
- Wang Z, et al.: Image quality assessment: from error visibility to structural similarity. IEEE Trans Image Process, 13(4): 600-612, 2004. Available: https:// imagej.nih.gov/ij/plugins/ssim-index.html
- David GL: Object Recognition from Local Scale-Invariant Features. Proceedings of the International Conference on Computer Vision, 2(2): 1150-1157, 1999.
- David GL: Distinctive I mage Features from Scale-Invariant Keypoints. International Journal of Computer Vision, 60(2): 91-110, 2004.
- Akasaka T, et al.: Optimization of Regularization Parameters in Compressed Sensing of Magnetic Resonance Angiography: Can Statistical Image Metrics Mimic Radiologists' Perception? PLoS One, 11(1): 1-14, 2016.
- 10) Saotome K, et al.: A brain phantom for motioncorrected PROPELLER showing image contrast and construction similar to those of in vivo MRI. Magn Reson Imaging, 36: 32-39, 2017.
- 11) Takatsu Y, et al.: Evaluation of contrast and denoising effects related to imaging parameters of compressed sensitivity encoding in contrast-enhanced magnetic resonance imaging. Radiol Phys Technol, 14(2): 193-202, 2021.